

# とこなめ市議会だより NO. 178

令和6年3月1日 編集 / 発行 常滑市議会

〒479-8610 愛知県常滑市飛香台3丁目3番地の5  
TEL : 0569-47-6128 (直通)  
E-mail : gikaigiji@city.tokoname.lg.jp

## 11月20日 名古屋市消防航空隊合同救助訓練

名古屋市消防航空隊と常滑市消防本部による合同救助訓練が行われました。



## 1月7日 あいち消防団の日 in 常滑



1月20日のあいち消防団の日を前に、1月7日にイオンモール常滑で団員募集活動が行われました。消防団は地域の安全安心を守る要ですが、愛知県内の消防団員の数は減少しています。愛知県内一斉にPR活動をしています。

## 行政視察報告特別号

他の自治体の先進的な取組を調査するため各常任委員会が行政視察を行いました。

### 〈目次〉

総務委員会視察報告	P2
文教厚生委員会視察報告	P3
経済建設委員会視察報告	P4



You Tube



いいね・チャンネル登録してニヤン



## 総務委員会行政視察報告（令和5年7月3日～7月4日）

### 福岡県八女市 『予約型乗合タクシー』『ふる里タクシー』について

八女市は2町2村の合併により、福岡県で2番目の面積（482km<sup>2</sup>）があります。広大な山間地域を抱え、高齢化率36.2%で高齢者の地域公共交通の維持・確保が必要なため「ふる里タクシー」が導入されました。

平成24年度から本格運行され、11エリア内の移動を平日8便、16台の10人乗りワゴン型タクシーで、利用料金は300円で運行されています。

予約受付、配車管理を社会福祉協議会が行い、車両は各事業者から借り上げて実施されています。

利用者は事前登録制で、前日までに電話で予約を行います。利用人数は一日約158名、年間約3万8,000人です。

予約は4人の職員が対応、乗車の順番や地域、利用者を熟知し、

さらに地域の店舗や病院、金融機関など様々な情報も調べられています。

課題として、利用者が限定されてきており、男性は高齢になっても自動車運転をするため、利用率が低いとのことでした。また、利用したい場所がエリア外のとときの幹線バスとの乗り継ぎも大変であるとのことでした。

利用促進のために、地域に出向き説明会を行ったたり、70歳以上の免許返納者には無料券を配付するなど、工夫を凝らしていました。

生活になくてはならない地域交通であり、今後加速する高齢化率を考えると必要な施策と感ずりました。



### 福岡県福津市 『SDGs 未来都市に』について

福津市は福岡市と北九州市の中間に位置し、両都市への住宅供給地として発展しています。

令和元年に国から、経済・社会・環境の三側面の統合的取組により、新たな価値を創造する自治体として「SDGs 未来都市」に選定されました。同年「SDGs 未来都市計画」を策定し令和4年から第2期に入っています。

具体的には、市民活動の場を提供する「キッカケラボ」や、何をすればいいのか分からない市民に向けて、「BASchool」というファシリテーター実践塾も行っています。

「キッカケラボ」には、市民活動やNPO法人、自身の趣味や関心ごとを広めたい人、連携を求める学校・企業・行政機関など、市民活動の様々なサポートを行っています。

「BASchool」では、地域の担い手を増やし、人が集い

たくなる場づくりのコツを学び、実際にみんな実践して自信をつけていく連続講座を開催しています。

また、女性職員を多く活用していると感じました。

個々に活動をしていた市民同士が出会う場を市が用意し、さらに、地域で活躍するリーダーとなる人材を市が育成することで、様々な活動が個人のみならず今後も長く続き、市民協働のまちづくりが活性化するきっかけをつくっていると感じました。



### 総務委員会

委員長 加藤代史子  
副委員長 西本真樹  
委員 加藤久豊  
委員 伊藤史郎  
委員 中村崇春  
委員 宇佐美穂

# 文教厚生委員会行政視察報告（令和5年10月3日～10月4日）

## 香川県東かがわ市 「部活動の地域移行に （5/2）」

常滑市では令和5年10月から、中学校のサッカーや剣道、吹奏楽の部活動の地域移行を開始し、令和7年度までの改革推進期間中に他の部活動の地域移行を目指しています。

今回視察した東かがわ市では、市内3か所の学校で小中一貫教育を実施しており、令和4年度より軟式野球、令和5年度より男子バレーボール、剣道の地域移行を開始しました。また、人口が3万人を切っており、学校単位での部活動が困難になってきたことから6年前から合同練習に取り組んできたことがスムーズな地域移行につながったようです。

指導体制は教育委員会内に「東かがわクラブ」を組織し、教員を中心に指導を行っています。教員を確保する人材確保が難しいなか、大学生や保護者が指導員として参加しています。また、組織運営の中心となるコーディネーターの存在が

必要です。

東かがわ市は部活動の地域移行を「子供たちのため」と明確な方針を示しており、父兄や教員からの賛同を得ていました。

今後の課題として教員以外で指導できる地域人材が少ないことやこれから地域移行していく部活動の準備が進んでいないことなどがあります。地域移行の成果として主に次の点が挙げられます。

- ・子供たちがみずからやりたい部活動を選択できる。
- ・同じ想いを持った他校の生徒と交流すること
- ・広い人間関係を築くことができる。

・指導者も専門種目を指導すること  
で「やりがい」の向上につながっている。  
地域の人材の掘り起こしが必要と感じました。



## 香川県高松市 「ヤングケアラー支援に （5/2）」

日本でヤングケアラーの問題が取り上げられてきたのは最近になってからのことであり、世界的に見ても日本の支援は大きく遅れています。

高松市では、令和4年度から周知・啓発活動を開始し、令和5年度からヤングケアラーコーディネーターの配置や家事支援サービスの開始、相談窓口の充実などの支援事業を行っています。

ヤングケアラー支援事業を進めていくうえで主に次の課題があります。

- ・家族で助け合うことは当然だと思っている家庭が多く、表面化しにくい。
- ・専門家が少ない。

これらに相談してよいかわからない。高松市では子供たちにヤングケアラーを知ってもらおうツールとして小中学生・高校生に合わせた3種類の啓発リーフレットを作成し配布しました。また、教員や自治体職員などを対象にした講演会の実施やヤングケアラーコーディネーター

ターが様々な機関に出向き、周知や支援のためのネットワーク作りを行い、この問題への関心度を高めるとともに専門家の育成に努めています。

このほか、家事支援サービス事業ではヤングケアラーのいる可能性のある家庭を何度も訪問しています。

現在把握しているヤングケアラーは30人であり、実態の把握に大変苦労している状況がうかがえました。が、何より家族や本人、または担任の教員が気づくことが大切であると感じました。



### 文教厚生委員会

委員長 坂本 直幸  
副委員長 森下 雅仁  
委員 盛田 克己  
委員 伊奈 利信  
委員 井上 恭子  
委員 肥田 裕士

千葉県千葉市  
「千葉市農業基本計画」  
（こころ）

千葉市の政策は「千葉市基本計画」が柱となり、農政については「千葉市農業基本計画」が定められています。近年の農業を取り巻く環境変化に対応するため、令和5年からの5年間の計画を策定し、基本目標を「農業の持続性を高め、100年先の未来に農業と食を「なく」と定めまし

た。そのためには、農業の魅力を高め、若者を選ばれる職業となるよう、長期間就農可能な40代以下の青年農業者を100人にすることと、3,000万円以上の売上規模層を全体の10%とすることを目指しています。

千葉市の市内総生産の内、農業は0.1%程度であり、



令和2年現在で農業経営体は911経営体で5年前に比べて213経営体減少しています。そのような状況の中、市内に農業の拠点として「農政センター」を開設し、市の技師職員による営農指導や種苗の供給、スマート農業の実証実験、体験学習農園、新規就農者向け研修を実施しています。新規就農者への手厚い農業支援をしていると感じました。

葛西臨海公園（東京都江戸川区）  
「公園の賑わいの創出」  
（こころ）

葛西臨海公園は、緑と水と人のふれあいをテーマとして令和元年に開園した公園で、災害時の避難場所や大規模救出救助活動拠点候補地として、防災上の重要な役割も担っています。駐車場の一角には、かまどベンチやマンホールトイレの設備もあり、防災訓練も行われています。東京都の指定管理者として公益財団法人東京都公園協会が管理しています。

令和元年より施設のリノベ-

ションと運営を担当した民間会社による再生プロジェクトが展開され、本日にその公園を楽しむために必要なものは何かを考えてニーズを掘り起こしました。例えば、公園でやりたいことは何だろう。



店内飲食よりピクニックなのではと考え、通常のメニューにプラスしてレジャーシートレンタル付のピクニックセットの販売を始めたところ、今では人気商品となったそうです。手ぶらで寄れるBBQ施設もあり、広場で結婚式もできま

す。

点（出店した店）ではなく面（公園全体）の視点で公園の活性化を図ることが必要だと感じました。

ポートレース江戸川  
「運営・経営」  
（こころ）

東京都の東部に位置する江戸川区は中小商業工業地帯にあり、現在のレース場は9市で施行しています。常滑の海とは異なり、中川という河川の中に競走水面があり、客席にも近く、臨場感を感じられるレース場でした。

売上については平成26年より右肩上がりです。電話投票やインターネット投票が開始されてからは特に売上が伸びてきています。また場内での来場者サービスでは、ファミリースでは、ファミリース向けの飲食物等のサービスチケットの配布を実施しています。場の特殊性を生かしつつ、新たなファン層の獲得にも積極的に取り組んでおり、とても参考になるレース場でした。



経済建設委員会

- 委員長 大川 秀徳
- 副委員長 齋田 資
- 委員 相羽 助宣
- 委員 稲葉 民治
- 委員 成田 勝之
- 委員 岩崎 忍